

Q 小人数学級の優位性は A 基礎基本の定着で効果



桜井 博義 議員



▲今日も元気に登校

Q1 ①小人数学級の優位性については、父母・教育関係者による調査ではつきりしています。小人数学級をどう考え、どのような取り組みをされてきたか。
②不登校児童生徒の増加は、子どもの信号が教育現場に伝わっていないことです。現状の実態と対応策を伺います。
③教員は会議、研修会等多忙化によって子どもと接する時間が奪われています。実態をどう認識し

ているのか伺います。
④新指導学習要領は、子ども・先生にも詰め込み、競争といった教育が強まると考えますがどうか。
A1 ①19年度より鶴飼小1・2年生で実施し、基本的な生活習慣や、基礎基本の定着で効果がみられています。
②19年度より、増加の傾向であり、地域からも支援チームを形成し、人的な教育環境を整え、楽

しく学べるように努めます。
③九割の教員が時間外に業務をし、98%が多忙と感じていることから、学校に対する調査や会議の見直しに努めます。
④「生きる力」を育むことを理念とし、序列化や競争につながらないように配慮します。
低所得者層の支援・軽減策を
Q2 ①景気悪化に伴い、所得の低下、中小企業の倒産により、村民生活は窮地にたたされていますが、認識と課題を伺います。
②担税能力が急速に低下し、収納に影響がでています。これまでの枠に留まらず一歩踏み込んだ対策を実施すべきと考えますがどうか。
A2 ①企業の事業不振に対し、緊急雇用対策は講じておりますが、引き続き生活支援・相談業務を積極的に行っています。
②税金は適正に賦課されていると考えています。生活困窮に伴う減免件数、金額とも今年度は増加していることから、更に相談し易い窓口を整え、十分対応していきます。

Q 春子谷地の湿地復元は A 学・官・民の協働で実現



▲春子谷地湿原植林活動

Q1 自然環境対策で春子谷地湿原の復元について、今後の計画を伺います。
A1 調査結果を捉え15年から植林活動を始め現在は、村民と全農いわて・連合いわて・東

北電力労組グループの協力を得て実施しています。
現在の進捗状況は、総面積36ヘクタールに対し20%が完了しています。協議の結果、可能な場合は盛岡農業高校林業研究グループの協力も得るなど多くの皆様の協力で継続してまいります。
馬産振興、チャグ馬の今後は
Q2 ①馬産振興の現状と計画を伺います。
②チャグチャグ馬の歴史、馬に関する歴史館設置の考えを伺います。
③チャグチャグ馬に参加馬の現状と助成について伺います。
A2 ①村内の飼養頭数は、個人・団体含め77頭です。村営相の沢牧野の充実、安全管理を図り、牧野使用料の農家負担の軽減に努めます。
②「馬っこパークいわて」の活用目標として関係団体で、県馬事公苑構想協議会が組織され、馬

事文化部門で博物館構想が協議されています。
③チャグチャグ馬コ出馬頭数は、過去5年間は40頭前後で推移しています。出馬料が保存会より8万円支給されています。その他イベント等に、同好会滝沢支部には、村観光協会より60万円助成されています。
Q3 食育の対策について、村の小学校では年一校を対象に実施されている食育学習の、評価と計画を伺います。
A3 村食生活改善推進員連絡協議会の協力を得て実施され外部講師の授業に、児童の関心も高く、調理実習を通して「主食、主菜、副菜」のあり方、庖丁の使い方など多くの成果があったと、判断し今後も関係組織と調整を図り継続してまいります。



斉藤 健二 議員